

届け！宇城市の仲間へ。震災を乗り越えて

4月に発生した熊本地震。大牟田市においても震度5強の揺れが観測され、あらためて自然の脅威を感じる出来事がありました。地震の後、熊本から多くの子どもたちが大牟田に避難してきており、現在も避難生活の子どもがいます。

さて、熊本県では、2つの小学校、1つの中学校がユネスコスクールに加盟しています。いずれも宇城市にある学校です。これまでも、世界遺産学習等を通して、大牟田市教育委員会と宇城市教育委員会は、交流を続けてきました。そこで、本市の小・中・特別支援学校では、宇城市の被災地支援のために募金活動を行い、集めた支援金は、児童会・生徒会の代表から安田昌則教育長に手渡され、安田教育長を代表とする訪問団から宇城市教育委員会へ届けられました。一日も早い復興を祈念するとともに、ユネスコスクールとしての「つながり」を大切に、これからもESDを推進していきましょう。



▲大牟田駅での募金活動
(大正小学校)



▲思いを教育長に託して...
(児童生徒代表による贈呈)



▲宇城市の教育長へ...
(安田教育長による贈呈)

世界遺産登録1周年を記念して

明治日本の産業革命遺産として、三池炭鉱関連施設が世界遺産に登録されて、1年が経ちました。あの感動から1周年を記念して様々なイベントが行われます。7月9日には、宮原坑跡で駿馬北小学校の児童によるボランティアガイド、米生中学校生徒によるプラスバンド演奏が行われます。市内の多くの学校は、世界遺産をいかした学習がスタートしています。昨年は、世界遺産学習サミットが本市で開催され、全国から多くの関係者が集い、大きな成果を上げました。今後も、世界遺産学習の取組の充実を図っていきましょう。



大牟田市立大正小学校の実践

障害のある方との交流を通して

4年生の児童は、福祉学習として「障害のある方との交流」を行っています。グループホーム見学や車いす体験、サウンドテーブル tennis体験を行う中で、障害のある方への理解を深めることができました。また、交流会を計画したり、実施したりする学習活動をする中で、障害のある方への思いや願いに触れ、関わりを深めることができました。

それらの体験活動を通して、障害のある方への見方や考え方が少しずつ変化して、自己の生き方を考えることや心のつながりを実感することができています。



大牟田市立勝立中学校の実践

進路を切りひらくキャリア教育の実践

第2学年は、「未来の自分を創る」取組として職場体験学習を行いました。総合的な学習の時間における【課題との出会い→課題設定→課題探求→自己表現】の4段階の学習過程に基づいて実施しています。「課題との出会い」として、ハローワークから講師を招き、体験を行う前に、自分を知ることの大切さや現在の就職の状況、中学校時代にやっておくべきことなどについて、話をいただきました。「課題設定」の段階では、体験する職場を考え、生徒が自ら連絡を取って、職場体験に行きました。写真は海上保安庁での体験の様子です。

今後、「課題追求」として、夏休み中のボランティア活動や働く人の話を聞く会などを計画しています。また、「自己表現」の段階では、パソコンで、プレゼンテーションを作成し発表する予定です。

